



■□■ショートコメント■□■

◆本作のチラシには、「大ヒットTVシリーズ『THE KILLING/キリング』の監督が実在の事件《フラナン諸島の謎》を基に描く衝撃のミステリアス・スリラー」、「絶海の孤島で、3人の男が忽然と消えた。その「謎」は今も、そして永遠に、解かれることはない——。「そして、誰もいなくなった。真実のすべては、その島だけが知っている——。」等の見出しが躍っている。

◆公式ホームページによれば、本作のイントロダクションは次のとおりだ。

1900年12月、スコットランド沖の北大西洋に浮かぶ孤島で3人の灯台守が忽然と消えた、《フラナン諸島の謎》と呼ばれる実在の失踪事件。100年以上が経過した現在も真相は謎のまま、様々な説が取り沙汰されている。この世界的にも有名な未解決事件を題材に、大胆な仮説と解釈で描くミステリアス・スリラーが、この『パニシング』だ。

荒涼とした孤島を舞台に展開される、謎めいた物語。人間の奥底に秘められた、醜悪な欲望、猜疑心、孤独感。ふとしたきっかけから、それらがむき出しにされた時、狂気と恐怖に満ちた物語が幕をあける。単なるスリラーでは片づけられない、《人間心理の闇》を鋭くえぐる、一筋縄ではいかない作品の誕生である。

主演は、『ジオストーム』『ザ・アウトロー』『ハンターキラー/潜航せよ』とヒット作が続く、絶好調のジェラルド・バトラー。バトラーは、この作品は独自のジャンルに属すると語る。「こういうスリラーは初めて目にした。とても感情に訴える。この3人を深く知ったところで、悲劇が起こる。心を揺さぶられると同時に、とても残酷で恐ろしい。すごく怖いけど、映画の半分は泣き通しになるよ」。この企画に惚れ込んだバトラーは、自らのプロダクションで本作を製作、プロデューサーにも名を連ねている。

共演は、スコットランドのベテラン俳優ピーター・ミュラン（『マイ・ネーム・イズ・ジョー』『戦火の馬』）、そして新人のコナー・スウィンデルズ。監督は、数々の賞に輝くデンマークのクリストファー・ニーホルム。大ヒットを記録し、《北欧スリラー》の名を一躍世界に広めた傑作『THE KILLING /キリング』等テレビシリーズで活躍してきたが、本作が満を持しての劇場用映画デビュー作となる。

◆また、公式ホームページによれば、本作のストーリーは次のとおりだ。

スコットランド沖のフラナン諸島。絶海に浮かぶ無人島アイリーン・モア島に、3人の灯台守がやって来る。これから6週間、寒風吹き荒ぶこの島で灯台をともし続けるのが彼らの仕事だ。メンバーは、灯台守を25年続けているベテランのトマス、短気と粗暴な大男のジェームズ、まだ新米の若者ドナルド。

3人の静かで退屈な日々は、嵐の夜の翌朝、破られることになる。ドナルドが、流れ着いたボートと漂流者を発見。崖下に降り、ボートに積まれていた木箱を引き上げようとしていると、死んでいると思っていた漂流者が突然襲いかかってくる。身を護るため必死で抵抗したドナルドは、逆に漂流者を殺してしまった。そして木箱を開けてみると、中には金塊がぎっしりと詰められていたのだ。

思わぬ成り行きに動揺する3人の脳裏に、ドス黒い欲望が沸き上がってくる。死体を処分して、何も無かったことにすれば、金塊は自分たちの物になる……。だが3人のそんな想いをあざ笑うように、島にロックとボラという男たちが現れる。あの漂流者と木箱を探していた2人は、トマスたちの嘘を見破り、凶暴な正体をむき出しにする。血みどろの戦いの果て、気がつく3人の前には、ロックたちの死体が転がっていた……。

死体を海に捨て、すべては片付いたはずだった。だが、誰もが罪の意識に怯え、男たちの精神状態は限界に達してゆく。幻覚に追い立てられ、狂ったように暴れるジェームズ。疑心暗鬼は深まり、仲間だった3人は敵同士となり、自分だけが助かろうとあがきはじめる。そして遂に、破滅の時は訪れた……。

◆さらに、公式ホームページによれば、“フラナン諸島の謎”とは次のとおりだ。

“フラナン諸島の謎”とは？

フラナン諸島、アイリーン・モア島。この無人島には侵入者を歓迎しない妖精がいるという伝説が、古くから語り継がれていた。付近の海は難所として知られており、航行する船の安全を確保するため灯台が設けられ、3人の灯台守、ジェームズ・デュカット、ドナルド・マッカーサー、トマス・マーシャルが勤務していた。1900年12月、島の沖を航行していた貨物船が、灯台が消えていることを発見。当局が調査隊を送ったところ、男たちが消えていたのである。3人全員が灯台を放置して離れるということはない事態であり、規律にも反することであった。

灯台の中には特段、異常はなかった。ランプはしっかりと手入れされていて、食器類も洗ってあった。火床の灰は冷たくなって、時計はすべて止まっていた。台所にある椅子が一

脚ひっくり返っていたという説もあったが、それは後から脚色として付け加えられたものらしい。島の西側に暴風雨の跡があり、防水コートが2組無くなっていた。しかし、なぜ2組なのか？彼らのうちの1人は、防水具なしで外に出たのか？それは不可解な行動であり、灯台の日記に延々と残されている記録には動揺がうかがえる。この島で、何が起きたのか？世界の果てで、隔離された状態で暮らすこの男たちの行方は、未だ謎のままである。3人の消息に関しては様々な説が立てられてきた。暴風雨の中誰かが足を滑らせて海に落ち、彼を助けるために残る2人も海に飛び込んだのか？3人のうちの誰かが正気を失ってほかの2人を殺し、自分も海に飛び込んで死んだのではないか？中には超自然的な現象であったという説もある。

◆本作は、ジェームズ・デュカット役を演じた俳優ジェラルド・バトラーが企画に惚れ込んで、自らのプロダクションで制作したらしい。3人の心理劇を中心にした展開はそれなりのスリルとサスペンスに富んでいる。しかし、私には次の諸点で不自然なストーリーが目についてしまった。すなわち、①1度は死体と判断した男が、突然息を吹き返してドナルド・マッカーサー（コナー・スウィンデルズ）に反撃してくること。②ジェームズとトマス・マーシャル（ピーター・ミュラン）の2人が殺し合いになったと思ったのに、実は・・・？③上陸してきたのは男2人ではなく、もう1人若い男がいたこと。④正気を取り戻したジェームズが、結局トマスの助けを借りて海中で自殺すること、等々だ。

そのため、残念ながら本作はショートコメントとし、星3つに。

2020（令和2）年2月10日記